

臨床福祉専門学校
平成30年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：平成30年9月22日（土）15：00～16：00

平成31年3月23日（土）15：00～16：00

場所：臨床福祉専門学校 3F会議室

出席委員及び所属

委員長：相原 実（地域代表）

矢内 崇博（業界関係者・同窓会長）

澤田 光毅（卒業生代表）

徳永 正（非常勤講師代表）

大谷 修（学校長） 石垣 栄司（教務部長）

萬崎 保志（事務部長） 樋口 豊朗（事務局 教務課）

欠席：馬目 雪枝（学生委員長）

1. 専門職大学開学の影響下における、今後の本校における既存学科について（報告）

2019年開学予定であった専門職大学については、認可申請を取り下げ、現在2020年度開学に向けて、再申請を行っている。最終結果は2019年5月頃に確定する予定。それに伴って、臨床福祉専門学校の既存の学科については、すべて募集停止の申請を行った。

よって、修業年限が最も長い理学療法学科夜間部の学生が2022年3月に卒業した後、臨床福祉専門学校は閉校となる。

（各学科の廃課予定時期）

言語聴覚療法学科	2021年3月
理学療法学科（昼）	2021年3月
理学療法学科（夜）	2022年3月
柔道整復学科	2020年3月

2. 会議の趣旨説明

上記の通り、将来的に閉校が予定されている本校としては、今後、本委員会において、「何が学生に対してできるか」「我々は何をすべきか」を焦点とし、主に学生サービスに関わる「就職・学生相談・学生生活」等を重点項目とする事が、今年の委員会で決定した。

その趣旨を踏まえて、自己評価報告書におけるそれぞれの項目で、自己評価をした経緯・それぞれの課題・参照資料を学校側から説明をし、それに対して、委員に評価を頂く事とする。

3. 自己評価の説明と委員の評価について

(4-13 就職率)

総括：自己評価としては、就職率については経営指標にも入れており、合同就職説明の実施や、就職内定状況の把握については、最低限の取り組みを行っている事から、一定の評価をしていた。それに対して委員からも同等の評価を頂いたものの、数点指摘・検討事項を受けた。

(指摘、検討事項)

- ・就職を取り仕切る部署が現実問題ない事から、難しい案件であるが、就職活動そのもののやり方を、学生主体ではなく学校主体で行う事。
- ・年齢層の高い学生については、就職口はあるものの、窓口は狭まる。それについては、入学前に、面談を徹底する事。

(4-15 卒業生の社会的評価)

総括：専門職資格取得の為の養成校である事から、卒業後に学校と関係を保つ事は極めて困難であり、自己評価上の評定は厳しく付けざるを得なかった。委員からは、同窓会によるPT学科・ST学科の合同勉強会の取り組みが評価され、微力ではあるが、自己評価の点数を上げるよう指摘を受けた。

(5-16 就職等進路)

総括：就職活動の一環である、進路指導については、教員・学生間のやりとりが主であるが、それについての学校としての情報管理や情報共有が稀薄である事から自己評価の結果はやや低めの採点であった。とはいえ、委員からは求人情報の提供や、合同説明会の実施、学生委員会の今後の展望等、一定の基準は満たしているとの評価を受け、自己評価の点数を上げるべきとの評価を受けた。

(指摘、検討事項)

- ・現行の就職進路指導についての学生満足度と期待度の把握
アドバイス提供の場の確保

(5-18 学生相談)

総括：学生相談に関する支援体制については、専属のカウンセラーを配置し、常日頃から学生の相談を行っている。課題としては、学生のプライバシー保護の為に、相談内容を公に共有してない事で、例えば学校としての問題があるか否かが把握できない事。

留学生の対応については、資格取得や就労ビザに差がある関連で積極的に行っていない。

(指摘、検討事項)

- ・学生相談に関しては、専属のカウンセラーの勤務が土曜限定となっている。土曜日に授業がない学科や、土曜日に授業が1日行われる学科があるので相談する学生の学科も偏りがあるのではないか、幅広い運用が可能か検討すべき
- ・留学生については、政治的な背景からも今後ますます需要が増えてくると思われる。他校では積極的に受け入れを行っていると聞いていたが、まずは、留学生である事でどのようなデメリットがあるか、もう1度学校として精査すべき

(5-19 学生生活)

総括：奨学金については、夜間部を中心に需要は極めて高い。

しかし、奨学生の退学も多い現状から、受給要件については、手続きの際に徹底をする必要がある。

(指摘、検討事項)

- ・保健室の拡充、整理を検討すべき、学生が体調を崩しやすい時期（夏前や冬）に使用が集中した際に、対応できないのではないか？

3. 今後の学校関係者評価委員会について（報告）

職業実践専門課程の認可が母体となって本委員会を開催していたが、先般述べた通り、専門職大学の開学の影響下、近い将来学校を閉校する本校としては来年度、職業実践専門課程の認可を全て取り下げる方向であり、本委員会も今年を開催に最後となる趣旨説明を行った。